

琉球大学学術リポジトリ

参画教育と英語教員養成： 小学校英語実践授業を通して

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部 公開日: 2015-10-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 與儀, 峰奈子, Yogi, Minako メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/32114

参画教育と英語教員養成：小学校英語実践授業を通して

與 儀 峰奈子*

Implementation of a New Pre-service Teacher Training Course:
Collaborating with the Elementary School System

Minako YOGI

1. はじめに

近年のめざましいグローバル化、高度情報化の進展、インターネットの普及等に伴い、英語によるコミュニケーション能力や情報処理能力（情報リテラシー）の育成が強く求められている中で、小学生を対象とした早期英語教育への関心が一層高まってきた。現行の小学校におけるカリキュラムでは、英語教育は、「総合的な学習の時間」の中で行われているが、沖縄県においては、他府県に先駆けて、2003年度から、那覇市の全小学校で実験的に英語を教科として導入することを決定した。新聞報道によると文部科学省は那覇地区の全小学校を3年間の開発校に指定し5月2日から教科としての英語導入が開始された。この度宜野湾市も文科省によって小学校における英語教科特区に指定された（琉球新報8月23日）。その実施に当たっては、その後の英語教育との連結がうまくいくように、学習内容、教材、指導方法、指導者の資質、人材確保等を十分に検討し、誰が何をどれだけどのようにして指導するのか、しっかりしたプリンシプルに基づいて行うべきであることは言うまでもない。この計画を推進していくためには、ネイティブスピーカーの教師を含めた英語教員の大幅な新規採用と現職小学校教諭の再教育等が行政サイドで検討されるであろうが、緊縮財政の中で、財政的な面と即効性の面で問題は残る。その実現ためには、学校現場・大学・地域の3者が連携・協力し、地域の人的資源を有効に活用できるような教育体制を整えるべきである。

そこで、琉球大学教育学部英語科では、地域との連携・協力関係と英語教員養成プログラムの充実強化を図るために、平成13年度から英語教員養成の一環として、大学生の「参画」による小学校における英語教育の実施を試みた。ネイティブスピーカーの安定的な確保が容易ではないという現状を踏まえて、その補完と英語教員養成の観点から、本活動では、教職科目および英語専門科目を履修済みもしくは履修中の教職志望の学生を小学校に派遣し、英語授業実践を行った。「英語科教育法」等の授業の一環として授業実践が行われることで、教案や教材作成に関しては大学の担当教官から十分な指導を受けることが可能で、単位が与えられるという利点もある。教育現場では大学生は従来のような補助的な立場ではなく、学級担任と協力し合い各自が主体となって授業を展開することができる。更に、学生は英語教員免許取得に必要な中学校・高校における教育実習前に、小学校においても授業実践を経験することになり、教員としての資質向上にもつながる。その上、この体制は大学と地域との連携・協力関係を深めると共に、小学校側は英語教育に従事する人材の確保という当面の問題の解決も可能となり、大学・小学校双方にとって意義ある協力関係が構築される。

これから本格的に小学校で英語が教科として導入されようとしているが、その教育目標については、

* 琉球大学教育学部英語科

慎重な議論と吟味がなされ、人的資源と物的資源も質的にも量的にも確保されなければならないことは言うまでもない。人的資源の安定的確保に向けたネットワークを構築し、効率のかつ効果的な小学校英語教育プログラムが提供できるような教育体制の確立が求められている。本稿では、この英語科の実績に基づき、今後の英語教員養成の在り方及び教育システムについて考察する。

2. 琉大英語科と教育現場との連携

琉大英語科と地域の小学校との関わりは、これまでの地域との地道な連携・協力に基づいて行なわれてきたがその活動は、下記の通りである。

図1：琉球大学英語科の港川小学校における取り組み

	参加学生数	内容・参加／授業回数
平成10年	約5名	基地内小学校との交流会の通訳等（Halloween, Christmas, Valentine's Day, 等の行事の際）
平成11年	約10名	年間行事（Halloween, Christmas, Valentine's Day, Easter等）に及び4年生4クラス週1回の英語の授業8回担当。教案作成、教材研究・開発、及び実践にかかわる。
平成12年	3名	4年生4クラスを合計8回担当
平成13年	12名	前期：4年生4クラスを10回担当。 後期：2年生4クラス、4年生4クラスを10回担当。 トピックシラバスに基づいての教案作成、教材研究・開発、及び実践。
平成14年	6名	2年生の3クラスを10回担当した。混合シラバスに基づいての教案作成、教材研究・開発、及び実践。

図2：琉球大学英語科の附属小学校における取り組み

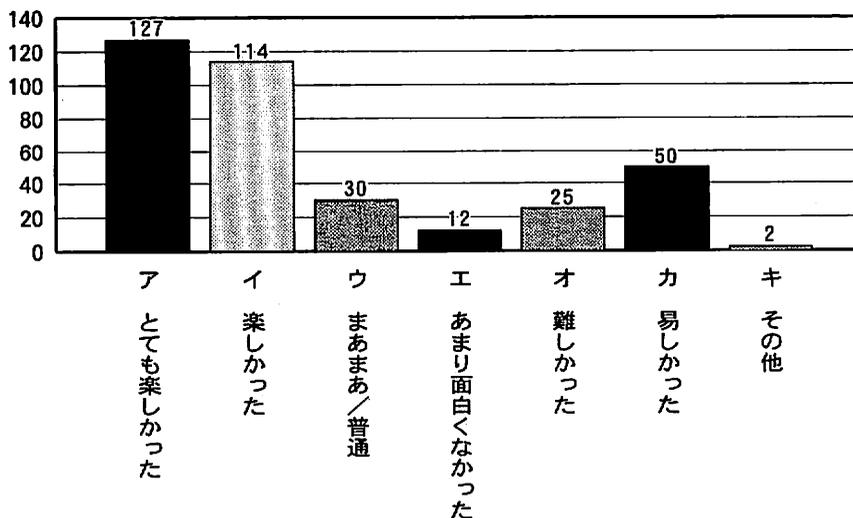
	参加学生数	内容・参加／授業回数
平成12年	7名	後期：朝の読書の時間を活用して、週1回20分の英語の授業。 2、3、5年生計3クラス担当。10回実施。
平成13年	11名	前期：4年生、6年生計2クラスを10回担当。 後期：3、4、5、6年生計4クラスを10回担当。 トピックシラバスに基づいての教案作成、教材研究・開発、及び実践。
平成14年	17名	4、5、6年生の合計9クラスを10回担当。 混合シラバスに基づいての教案作成、教材研究・開発、及び実践。

- A) トピックシラバス：学習者が興味・関心を持ちそうな話題や題材を中心に教材を組み立てて行く方法。
 B) 場面シラバス：典型的な場面を想定し、そこで用いる表現や単語を中心に教材を配列して行く方法。
 C) 機能シラバス：表現しようとする概念、言葉を使用する目的・意図等を柱に教材を編成する。
 D) 混合シラバス：A) B) C) を組み合わせた教材編成。

英語科と地域の小学校との本格的な関わりは、表1に示されているように、平成10年度の浦添市立港川小学校との交流に遡る。当初は、ハロウィーン、クリスマス等のイベントの際に催されるアメリカンスクールとの交流会で、約5名～10名の参加学生が、通訳やコーディネーターを務めた。平成12年には、卒業論文のテーマとして「小学校における英語教育」を選択した3名の学生が、そのデータ収集を兼ねて、4年生4クラスを対象に週1回合計8回の英語の実践授業に携わった。その際、教案の作成や教材

小学校英語実践授業に対するアンケート（平成14年度）
対象：琉大附属小学校4年生から6年生までの360名

英語の授業は楽しかったですか？



研究・開発は学生が各自で創意工夫して行なった。この年には、琉大附属小学校でも朝の読書の時間を活用して、英語の授業を開始した。対象学年は1、2、4年生の合計3クラスで、8名の大学生が担当した。平成13年度も引き続き港川小学校と附属小学校で、学生による英語実践授業を実施した。しかし、この年からは、それまでとは異なり、この活動を単にボランティア活動とするのではなく、「英語科教育法」の授業の一環として位置付けた。従来行ってきたボランティアのシステムでは、「自発的」参加が基本である以上、時間的制約のある学生を学期を通して安定的に供給するのは容易ではなく、その調整も困難であったこともその理由の一つである。また、小学校側からのニーズの高まりとそれに対する対応が多岐にわたり複雑化してきたこともあり、その解決策として、この活動を授業とリンクさせて学生との連絡網を単純化し、恒常的に人数確保が可能となるような活動形態にした。港川小学校では、前期に4年生の4クラスで10回、後期には2年生と4年生の4クラスで合計10回の実践授業を行った。琉大附属小学校では、前期に4年生と6年生を対象に2クラス、後期は3年生から6年生対象に4クラスを担当した。平成14年度は、港川小学校で6名の大学生が2年生の3クラスを担当し、琉大附属小学校では、17名の学生が4年生から6年生の合計9クラスの英語実践授業を実施した。各小学校の児童・生徒や先生方及び関係者各位からの反応も良く、概ね成功したと評価できる。

3. 大学生による英語実践授業に関するアンケート調査

英語実践授業の成果を示すものとして、実際に授業を受けた附属小学校の生徒を対象に行ったアンケート調査結果の一部、4つの設問に対する生徒の反応、を紹介することにする。調査対象者は4年生から6年生までの360名である。

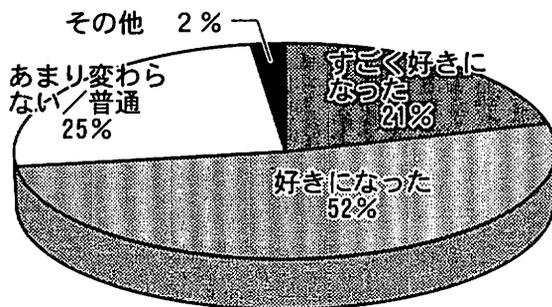
まず始めに、「英語の授業は楽しかったですか？」という質問に対し、「とても楽しかった」と「楽しかった」を合わせると241名、「普通」が30名、「あまり面白くなかった」は12名、「難しかった」25名、「易しかった」50名、「その他」2名という結果となり、好意的な意見が圧倒的多数を占めている。

次に「小学校で英語を習ってから好きになりましたか？」の質問に対し、「すごく好きになった」と

「好きになった」を合わせると73%、「普通」が25%、「少し嫌いになった」と「嫌いになった」は0%、「その他」2%という結果となった。肯定的な反応が多数を占める中で、ネガティブな項目を選択した生徒は皆無であった。

英語授業に対するアンケート

小学校で英語を習ってから好きになりましたか？

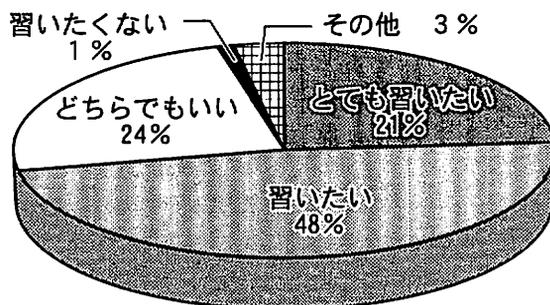


備考：少し嫌いになった/嫌いになった 0%

続く「これからも英語を習いたいですか？」という質問に対しては、「とても習いたい」と「習いたい」とを合わせると72%、「どちらでもいい」24%、「習いたくない」1%、「その他」3%、となっており、同じく好意的な評価が大多数である。この結果からも明らかのように、今回の英語科の活動が、調査対象者の小学生の英語学習に対する興味を喚起させたと確信している。

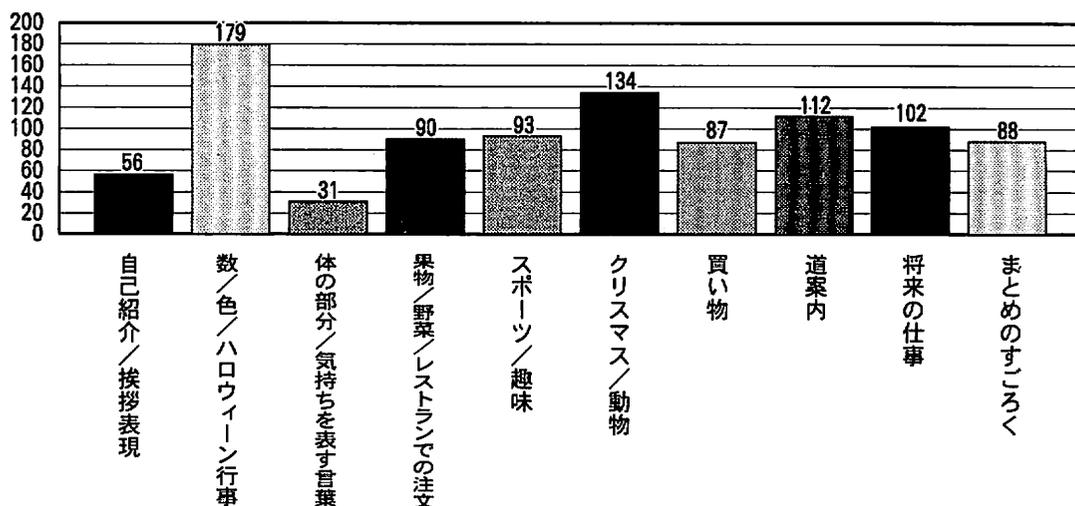
英語授業に対するアンケート

これからも英語を習いたいですか？



一方、「どのトピックが楽しかったですか？（複数解答可）」の設問に対しては、ハロウィーンやクリスマス、道案内、将来の仕事、などの題材を選択した生徒が多数を占めた。基本的に毎回の授業案は、トピックシラバスに基づいて作成され、その他の題材としては、「自己紹介/挨拶表現」、「体の部分/気持ちを表す表現」、「食べ物」、「買い物」、「レストランでの注文」、「スポーツ」、「趣味」等、が例として上げられる。授業内容は、ほとんど日常生活に密着した体験的活動も盛り込まれたコミュニケーション能力育成に留意した題材となっている。

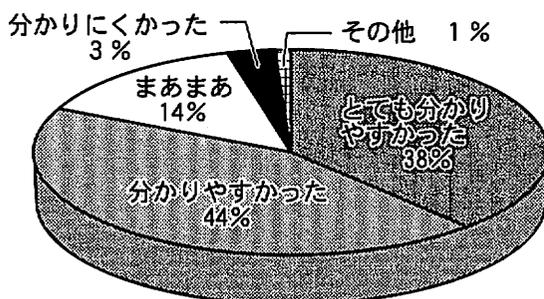
どのトピックがおもしろかったですか？



最後に、「大学生の英語の先生の、教え方はどうでしたか？」の設問に対しては、「とても分かりやすかった」と「分かりやすかった」を合わせると82%、「まあまあ/普通」14%、「分かりにくかった」3%、「その他」1%、という結果であった。多くの小学生が大学生の担当した授業に満足し、大学生の力量が認められたことを示していると考えられるが、「まあまあ/普通」14%、「分かりにくかった」3%と5人に1人の割合で消極的な反応をしており、この事実は真剣に受け止めるべきであると考えている。

英語授業に対するアンケート

大学生の英語の先生の教え方はどうでしたか？



以上は、琉大英語科の小学校における実践授業に関する報告であるが、先に述べたように、本活動は概ね成功を収めたと評価している。小学校における英語教育は、国際理解教育の一環として、対象となる児童・生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成とその言語や文化に対して柔軟に対応する基礎的な能力を身に付けることであると考えているが、そのことによって、中学校での英語学習に支障がないように、英語に慣れ親しみ、楽しく学習する積極的な態度を身に付けさせることが重要である。従って、その導入に当たっては、指導内容、指導方法、教材等については細心の注意を払って検討し、小学校において英語嫌いを作らないというしっかりした教育理念に基づいてなされるべきである。小学校で

の英語教育を成功させる極めて重要な要素として、その科目を担当するための専門的にも人間的にも優れた資質を兼ね備えた教員の養成がある。以下の節では、本活動の成果をふまえて、今後の教員養成の在り方について考察する。

4. 参画教育と教員養成

ここでは英語科の小学校における英語実践活動の意義と理論的位置づけを教育形態と人材育成の観点から考えてみることにする。このプログラムは、「参画」であると冒頭で述べたが、もともと「参画理論」、「参画教育」については林（2002：200）が提唱したもので、その著書の中で教育形態を「参集型」、「参与型」、「参画型」の3つに分類し、その概念を以下のように定義している。

1 参集型教育

まず、参集型の教育は、学習者が「知識」を早く大量に獲得する、すなわち効率的に“知る”ことを目的にする場合に適している。このスタイルでは、学習者は、学びの場に出席し、先生の話を聞き、ノートに記録する。こうすることで、学習者の知識は広まっていく。先生の側は教えようとする内容や方法、さらにそのねらい（目的）をひとりで決め、主としてレクチャー役を果たすことになる。したがって、学習者は聞き手（観客・視聴者・オーディエンス）になる。

ここで注意を要する点は、このスタイルで学びを成立させるためには、学習者にも、先生にも個人として高度の集中力とスキルが要求されることである。大学の講義はこの典型であるが、実はこの形態は、ある意味で最も難しい方法で、その前提に学習者の強い問題意識や動機を要求する方式なのである。

2 参与型教育

次に、参与型教育は学習者が自分の知識を「認識」にまで深め、ものごとの“見方・考え方”を獲得する場合に適している。このスタイルの特色は、他者との交流である。先生と学習者、学習者と学習者の間で、発信・受信による交流が行われ、討議が行われる。この他者との交流を通じて知的な生産物（発見物・創造物）が姿を現してくる。このため教師は、レクチャー役を務める場合もあるが、学びの場を運営していくコーディネーター役も努めることが重要になる。

3 参画型教育

さらに参画型の教育は、学習者が自分の知識・認識を活用して、それを生きて働く知恵にまで高めるために用いられる。すなわち、知識や認識を現実の世界に“生かすような使い方”さらには“自分の生き方や行動の仕方”に結びつけて学びとる「変換的・統合的な学び」に適している。[途中省略]そのためには、参与段階で形成された「認識」を一段高めて、“今、ここで、自ら”どう行動するべきかにかかわって、“意識化”が促進される必要がある。学んだ内容を他人ごととしてではなく、まさに自分のこととして、受け止められるようにすることがめざされる。

このスタイルでは、他の二つの類型では、先生がひとりで引き受けている学びの場を企画（計画・立案）するという領域にまで学習者が参加することになる。当然その企画に基づいて学びの場を設営し、評価することにも参加することになる。先生の側は、自らも「一人の学習者」であるとの立場を自覚しつつ、学習者が「学びの場づくりを自らになうという困難な企て」を成功に導くよう、スーパーバイザーの役割を果たすことになる。こうして、このスタイルでは、先生と学習者が共に学んでいくことになるので、理念的には教師と学習者が対等に協議しながら学びが運営されることになる。

林（2002：200）

上記の分類から明らかなように、学びの場において、教師の指導の目が働いている中で、「参集型」、「参与型」、「参画型」の順に学習者の自主性が高まっていく。

表1に示されているように、この3つの分類に沿って、学習者の役割は「視聴者」「出演者」「設営者」と変化し、学習者の行動も、attendance, participation, そして、commitmentへと変化する。又、表2に提示されているように参集型、参与型、参画型と進むにしたがって、理解の程度は、断片的、部分的、包括的となり、学生の参加姿勢も、受動的、能動的、から自省的姿勢へと変容する。この第3段階にあたる「参画型」では、学習者がその前段階である参与型、参集型で獲得した「知識や認識」を活用し、現実世界の中で自らどのように行動すべきかを考え、これまで学んだ内容をまさに自分と事として受け止めるという「意識化」が促進される。教育現場を実体験することによって意識が変化し、学生の主体性が着実に高まるのである。

(表1) 参加の型による教育の3種類

		1) 参集型教育	2) 参与型教育	3) 参画型教育
学習者	役割	視聴者	出演者	設営者
	行動	出席・視聴・記録 attendance	発信・交流・生産 participation	企画・実行・伝承 commitment
	獲得	知識	認識	意識
教師	役割	Lecturer	Coordinator	Supervisor
	行動	教える	調整する	学び合う
	決定	独断	相談	協議

林 義樹 『参画教育と参画理論』(2002: 201)

(表2) 参加の3段階(学習者の関わり方の変化)

段階	コンセプト	行動のレベル	理解の程度	参加の姿勢	情報の流れ
第1段階	参集	個人的	断片的	受動的	一方的
第2段階	参与	集团的	部分的	能動的	双方向的
第3段階	参画	組織的	包括的	自省的	多方向的

林 義樹 『参画教育と参画理論』(2002: 194)

小学校における授業実践活動を通して、大学生は毎回の授業成果を生データのデータとして次の授業へとフィードバックし、自分の授業が実際に小学生の身となり、将来的にも彼等に影響を与えると考えると責任感が増大し、まさに実際の教員としての生き方や行動の仕方を自分自身の問題として自覚し実践するという「参画教育」の本質を体験できるといえる。

このような視点で、これまでの英語科の小学校における実践授業活動を捉え直すと、まさに「参画型」の授業を先行していたと言える。

教員養成のカリキュラム・モデル「概念図」			
4年次 3年次 2年次 1年次	教職 生徒指導 教育相談 教育課程 教育の基礎理論 教職の定義	教員養成コア科目群 研究実習 教育実習 実践開発実習 教育実践体験	フィールド研究

平成15年日本教育大学協会「モデル・コア・カリキュラム」研究プロジェクト

この英語科の取り組みは、日本教育大学協会が提唱する「モデル・コア・カリキュラム研究プロジェクト」の構想とも一致する。日本教育大学協会は、「教員養成コア科目群」を基軸にしたカリキュラムづくりの提案をし、今後の教員に求められる実践的指導力を確保する手立てとして、教育現場での体験を教員養成カリキュラムの中に体系づけ、取得する免許科目に関わる特定の「教科の指導法」等に関連づける形でカリキュラムを構成し、教育現場と大学の連携など、横断的な教育組織の確立を提言している。

そのカリキュラム・モデルの特徴は、従来大学4年次で2～3週間の教育実習のみであった、教育現

場との接触を、大学1年次から開始し4年間継続して行なう点にある。4年間を通して授業観察、学校行事への参加、教師の校務補助などを行いながら、生徒や教師と関わる時間を増やし、体験的に実践的指導力を高めることを目的としている。

早い時期から教員志望の大学生が教育現場と関わり、教育実践体験、教育フィールド研究、実践開発実習、教育実習、研究実習等を履修していくと次のようなことの実現が期待される。

- * 学校での観察を通して実際の場面の現象を捉える力を養う。
- * 事例研究や体験事例を通して実践力の基礎を養う。
- * 教育実習での体験を振り返りながら、より問題の複雑なケースでの『改善』手法を学ぶ。
- * フィールドでの知見や学部の授業を通して学んだ事柄を基盤として教壇等で実習を行い、教材研究や生徒理解の方法、教授スキル等を修得する。

(日本教育大学協会：2003)

琉大英語科の活動は、上述したように既にこれに近いシステム作りとカリキュラムの構築がなされている。具体的には、小学校での実践授業は、2～3年次が行い、4年次でこの分野を卒論のテーマとして選択する学生は、引き続きデータ収集を兼ねて、実践授業を行っている。

5. 教育システムの構築

このセクションでは、大学における人材育成に関する方策等について、これまでの取り組みを踏まえ、今後の大学と教育現場、地域社会、行政サイドとが連携・協力した教育システムの構築について言及し、試案を提示する。

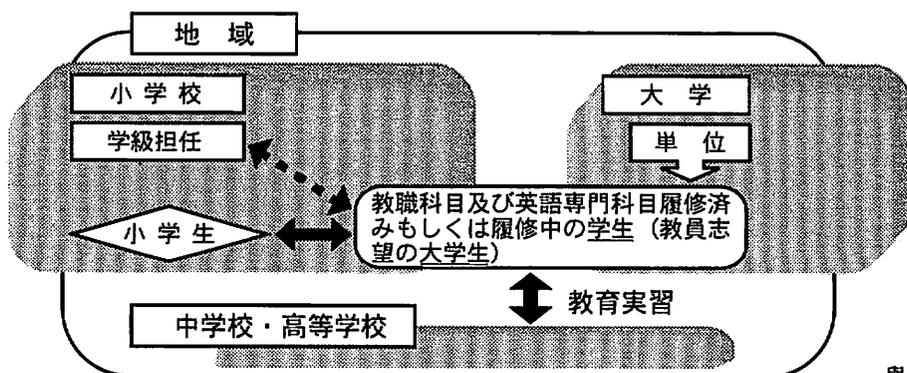
上述したように日本教育大学協会(2003)は、「モデル・コア・カリキュラム研究プロジェクト」の中で、大学1年次からの「実践体験」を導入した「教員養成カリキュラム・モデル」を提言しているが、大学におけるこのような科目の増設に伴い、教育現場の負担が増加し、安定的に実習校を確保することが問題になってくることは言うまでもない。

学校現場の一部を恒常的に提供することは、過重な負担となるものの、それは前述した学校と社会との結節点に対する社会的使命としてとらえる必要がある。従って、優秀で即戦力のある教員を育成するためには、教育現場の協力が必須であり、長期的な視野に立って考えると、教育現場の負担も多大ではあるが、やがてそれは大きな利益となって社会に還元されることになる。優れた人材を育成するにあたり、大学側と学校現場、地域社会との更なる連携・協力が必要になってくることは言うまでもない。このような方策に基づき、実践授業プログラムの意義を浸透させて、それを継続的に実施していくためにも、人材育成及び供給の在り方を、より安定したシステムへと変容させる必要がある。

現行の琉大のプログラムでは、具体的には図1のような体制で、小学校の英語実践授業を行っており、琉大生と小学校の双方にとって有益な関係が築かれている。

この図における「小学生」と「大学生」を結ぶ矢印は、大学生が中心的に授業を行うことを表している。「学級担任」と「大学生」の間の破線は、学生が学級担任からクラス運営やその他のアドバイスを受けながら、協力して授業に取り組むことを示している。これは、従来ALTやJTEの補助的役割であった学生ボランティアとは、大きく異なる点である。このようなプログラムのメリットとして、学生は「英語科教育法」の授業の一環として、授業実践を行うので、教案や教材作成に関しては、大学で理論的背景を学び、大学生同士の模擬授業では得られない、実践的指導力を教育現場で、直に身に付けることが可能となる。英語教師を目指す学生は、3～4年次で行う本実習前に実践授業を体験できるので、教員としての資質向上にもつながる。また、教科内容に対する、意欲や関心も喚起され、教育活動に対する使命感も強化される。

図1 琉球大学の試み（平成13年度フレンドシップ事業報告書より転載）



與儀（2002）

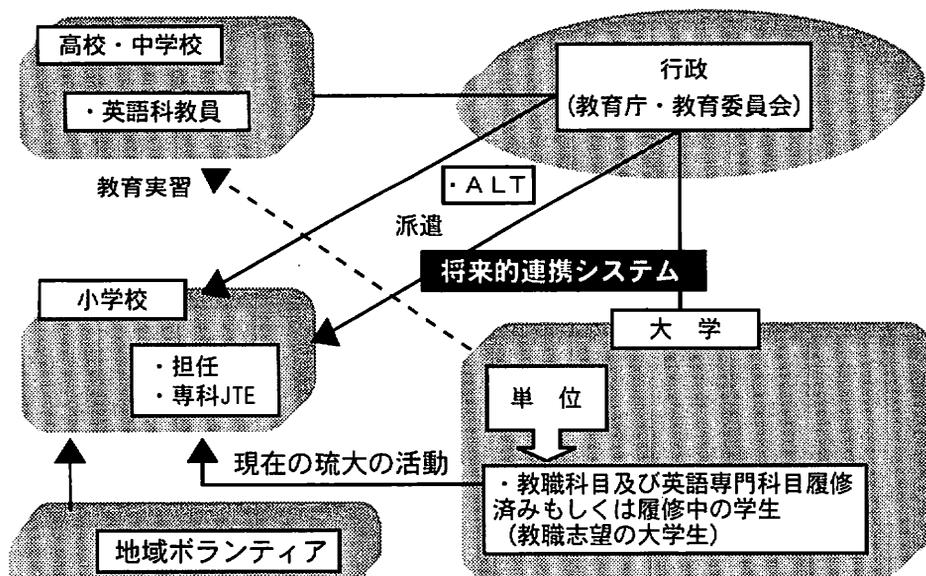
更に、学生は自作の教案を本物の生徒、つまり小学生を対象にして、シミュレーションすることにより、綿密な授業研究が可能となる。また、現場教員からの直接的なコメントやアドバイスを受け、児童・生徒とのコミュニケーションを重ねることで、指導技術が向上し、その後の教育実習や教育活動等で、即戦力となるような基礎作りがなされる。更に、教育現場で責任ある立場を与えられることによって、学生は社会人としての自覚を持つようになる。

この活動は、学生にとっては、教科指導技術や教師としての力量を体験的に磨くことができるメリットがあり、学校現場にとっては、学生が作成した手作りの教案・教材・教具を活用できるメリットもある。将来的には、英語教員志望学生全員に対して、小学校での授業実践を奨励する計画を考えており、これが実施されると、毎年、約50名程度の琉大生が小学校で英語実践授業を行うことになり、モチベーションが高く、意欲的で英語力のある学生を派遣するシステムが構築されると、その活動は学生と教育現場の双方にとって有益なものとなるであろう。

しかし、現行のシステムにおいては、大学と教育現場との交渉は、今のところ筆者個人が行っており、平成13年度から授業の一環として位置付けることによって、恒常的な人数確保と連絡網の単純化が図られたが、それでも地域の小学校と個別に連絡を取り合うのは、かなりの労力を要し、困難かつ非効率的であり、更なるニーズの高まりを考え合わせるとすべて対応することは難しい。また、学生にとっても、教育現場と担当時間を特定することは大きな問題である。鳴門教育大学大学院（2002：19）では、その「教育実践研究」という実践科目の推進において、履修時間の保証についての問題が提起され、現場に出かける時間が特定されていない場合は、大学の授業を休むことにもなり、現実的に二重履修の原因ともなっているようである。学生ごとに履修状況は大きく異なるため、その調整は容易ではない。大学院生という限られた人数の中でさえ困難が生じているのであるから、学部生はなおさら問題になるであろう。

すでに信州大学教育学部が平成11年度より「臨床の知」を掲げ、「学校教育臨床演習」の名の下に科目数、学級活動においてより幅広く幼稚園、小学校、中学校との連携を図っているが、これは学部を挙げての試みであり、また教育現場も附属の学校園という限られた範囲ということもあり、その連携は非常に安定した体制をとっているようである。このような共通理解に基づいた安定的なシステムを、より広い地域を対象として確立するために、本英語科においても、今後の展望として、行政と連携した新たなシステムを提案したい。現在行っているような、英語教育実践活動が、今後も、小学校現場と大学生の双方にとって、更に有意義なものとして、機能するためには、特に、小学校を統括する教育庁・教育委員会と積極的に関わっていくことが必要であり、大学と各小学校を繋ぐ窓口的役割は、行政サイドが担うのが、望ましいと考えられる。図2は、そのような行政を中心としたシステムの案である。

図2 行政を中心にしたシステム



與儀 (2003)

上述のように、行政サイドの協力が得られると、まず運営効率の向上が期待される。例えば、琉大生が通える範囲内の小学校から、英語担当者の要請があれば、行政サイドがその情報を取りまとめ、大学と連絡を取り合えば、大学側は派遣できる学生数を確認し、学年始めに通知することが可能となり、毎年5月頃には、実践授業を開始できるようになる。

このように行政が仲介役として介入するようなシステムが構築されれば、人材供給を安定化させることができる。大学、学校現場、地域社会、行政サイドの連携を基盤とすることによって、将来の人材育成における協同体制が期待でき、ひいては社会全体の利益としての優秀な人材輩出の一端を担うことが可能となるのである。

6. おわりに

これまで英語科が行なってきた琉大附属小学校及び港川小学校における英語実践授業は、実際に授業を担当した学生は言うまでもなく、かれらの実践内容を指導した筆者にとっても、収穫の多い経験であった。また、両小学校で英語実践授業を体験した学生が、その後の教育実習、あるいは教員採用試験、教育現場、大学院進学等で、目覚ましい成果をあげることができたのも、この活動と無関係ではないといえよう。

このような活動を通して、大学が行政や学校現場との協力関係を維持・推進し、優れた教員養成の体系化、地域と大学のパートナーシップの構築、人的・知的資源の共有・活用が可能となり、学校教育及び大学教育の双方を、より充実したものにできると思われる。今後、文科省が掲げるような「魅力ある教員の養成」に向けて教育プログラムのさらなる充実・強化を図って行きたい。

謝辞：本活動を実現するにあたり、教育実践の場を快くご提供頂き、学生に対して親身にご指導・ご助言して下さいました琉球大学附属小学校ならびに港川小学校の諸先生方に深謝申し上げます。

参考文献

- 信州大学教育学部. 2002. 『学校教育臨床基礎の実践』
- 鳴門教育大学総合学習開発講座. 2002. 『教育実践研究の現状と課題：総合的な学習と小学校英語活動 平成13年度教育改善推進費助成研究報告書』
- 日本教育大学協会. 2003. 『教員養成のモデル・コア・カリキュラムの検討：教員養成コア科目群を基軸にしたカリキュラムづくりの提案（中間まとめ）概要』
- 林義樹. 2002. 『参画教育と参画理論：人間らしいまなびとくらしの探求』. 学文社
- 文部科学省. 2003. 『魅力ある教員をもとめて』
- 與儀峰奈子. 2002. 『平成13年度琉球大学教育学部英語教育専修フレンドシップ事業報告書』
- 與儀峰奈子. 2003. 『平成14年度琉球大学教育学部英語教育専修フレンドシップ事業報告書』

資料

- 小学校英語授業に用いた題材の例
- 参加学生の感想例
- 学生指導事例
- 新聞記事（琉球新報2002, 1/14）（琉球新報2002, 1/21）（沖縄タイムス2002, 1/25）
- 授業風景写真（港川小学校および琉大附属小学校）

題材の例

Possible Topics:

- | | |
|---|---|
| 1. Greetings/Self Introduction
あいさつ/自己紹介 | 11. Days of the week/weather/season
曜日/天気/季節 |
| 2. Numbers & Colors 数や色 | 12. Twelve Months/Birthday/schedule
月/誕生日/スケジュール |
| 3. Fruits & Vegetables
くだものや野菜 | 13. Halloween 行事/文化・歴史紹介 |
| 4. Body parts 体の部分 | 14. Thanksgiving 行事/文化・歴史紹介 |
| 5. Clothing 衣服 | 15. Christmas 行事/文化・歴史紹介 |
| 6. Animals 動物 | 16. New Year's Day 行事/文化・歴史紹介 |
| 7. Stationary/School items
文房具/学校関連アイテム | 17. Money お金 |
| 8. House/Rooms/Furniture
家、部屋、家具 | 18. Shopping 買い物 |
| 9. Sports スポーツ | 19. Directions/Maps 方向/地図 |
| 10. Restaurant ordering レストラン | 20. Buildings around the area/Travel
建物の名前/旅 |
| | 21. Hobby/Jobs 趣味/仕事 |
| | 22. Consolidation まとめ |

参加学生の感想

港川小学校での英語活動を通して
海勢頭麗圭・山城愛子

10月24日から始まった、港川小学校での英語活動も、本日で9回目を迎え、活動としてはまとめの段階に入っています。これまで、英語圏の国々の文化・行事を知るために、Halloween, Thanksgiving, Christmasなどのテーマを扱ってきましたが、児童たちにとっては、自分達の国だけでなく、外国にも目を向ける良いきっかけとなったようです。私たちも、外国の行事に関してはそれほど知識があるわけではなかったのですが、授業前に色々調べをするなど、非常に勉強になりました。

英語活動を進める中で、特に重視したのが全身反応教授法 (Total Physical Response Approach) を用いた授業を展開することです。やはり、小学生の段階においては、リスニング能力が優れているため、楽しく身体を動かしながら学習する方法が、英語を定着させる上で最も有効だと考えたからです。例えば、第5時間目のbody partsを題材に扱った授業では、“head, shoulders, knees and toes” という歌を用いて、実際に身体の部位に触れながら歌うことによって、body partsの単語の定着を図りました。曲が2番、3番と進むにつれて、曲のテンポが上がっていくので、児童はそれに着いて行こうとして、モチベーションが高まり、とてもヒートアップしていました。また、新しい単語を導入する時も、ただ単にその単語をリピートさせるのではなく、その単語のイメージにあった動作をつけ加えることによって、児童の印象に残りやすくし、より楽しく自然に単語を身につけられるように工夫しています。英語活動以外の時間でも、児童は私たちに “Good morning!!” などと元気よく挨拶したり、「〇〇は英語でなんて言うの？」と聞いています。これは、英語に対する興味・関心の表れだと感じています。また、給食時間や清掃時間も一緒に過ごさせて頂くことによって、「今日の授業はどうだった？」といった会話も児童とすることができ、さらに仲良くなることができました。このことは、英語活動の時間の雰囲気作りプラスの影響が出ています。このような側面も大切だと実感しました。

港川小学校での英語活動の時間は来週で最終日となりますが、学級担任の先生方のご協力により、とても有意義な時間を過ごすことができました。これまでの港川小学校での経験を踏まえ、これからの小学校での英語教育についてもっと考えていきたいと思っています。ありがとうございました。

琉球大学附属小学校における英語授業実践を通して学んだこと 金城 厚

第1に、大学の講義で、教授法を学び、それを小学校で実践し色々なメソッドの良さや問題点などを実感しながら学ぶことができました。自分の経験上、日本語が全く話せない外国人との会話のなかで相手の伝えたいことをお互いの相互作用のすえ、理解できたときに喜びを感じたことがあるので、このような相互作用又はコミュニケーション活動を教室の中でも生徒に体験させたいと思って毎回実践授業に臨んできました。もし、そのような相互作用を教室のなかで体験させることができれば、きっと子どもたちは英語に興味をもってくれるだろうという強い信念があったからです。私は、ターゲットセンテンスの導入の際にこの方法を応用しました。まず、シチュエーションを設定します。その後、英語だけで行なわれるスキットを提示し、そのスキットのなかで、ターゲットセンテンスがどのような意味で使われていたかを推測させることで理解させようと努力しました。買い物などの簡単な内容の場合には、その方法で理解させることができましたが、内容が複雑になってくるとやはり英語やジェスチャーだけでは限界がありました。このように、理論を実践に移し様々なメソッドやテクニックを体験的に学ぶことができました。

第2に、授業中の子どもたちへの関わり方も体験的に学ぶことができました。子どもたちの中には、授業中に目立ちたがって、よく発言する子もいれば、周りのみんなに注目されることに、ストレスを感じる子もいます。実際に、授業のなかで、私たちが、指名すると、発言することができず、おどおどしている子もいました。そのような子には、優しい言葉をかけて励ましたり、間違っても「先生の説明がわかりにくかったね」などと、傷つけないような工夫をしました。このような時の対処法については教科書で以前読んだことがありましたが、それを実際に実践することができました。最後に、学級担任からの助言や、他の級友との意見交換により、自分では気がつかなかったことも多く発見することができました。

以上のようなことを、琉大附属小学校での実践で学んだことは、将来、英語教師を目指している私にとっては、本当に貴重な体験となりました。今後も、この経験をいかしてがんばっていききたいと思っています。

最後になりますが、私たちが心よく受け入れて下さった琉大附属小学校の先生方や生徒たちにとっても感謝しております。本当にどうもありがとうございました。

学生指導案の例

Teaching Plan

Ryukyu Daigaku Fuzoku
Elementary school
Student Teacher :
Natsuki Asato & Rie Arakaki

Term : October 24, 2001 to January 30, 2002

Class: 4-1 (and 5-2, 6-3)

Topic:

1st lesson Greetings and self-introduction / Animal—"Are you a ~?"

2nd lesson Halloween

3rd lesson Thanksgiving Day : "Do you have a ~?"

4th lesson Body parts

5th lesson Twelve months : "When is your birthday?", "It's ~."

6th lesson Classroom

7th lesson Christmas

"Rock, Paper, Scissors, Go !" "Who is King?", "Are you a King?"

8th lesson New Year Daily schedule : "What time do you ~?", "I ~ at..."

9th lesson Map / prepositions : "on , next to, under, in front of, behind,
across from, between A and B"

10th lesson Review —すごろく

Aims of this lesson :

- ♪ To let the students enjoy studying English.
- ♪ To create a nice atmosphere in the class.
- ♪ To introduce various cultures to the students.

Time	Procedure	Teacher's Activity	Students' Activities	Remarks
15min	Greetings & T's self-introduction	Teacher's self-introduction "Hi, My name is ..." Teach greetings— *Good morning. *How are you? *Fine, thank you. *And you? T : Repeat after me. Good morning...	Greetings Good morning. How are you? etc...	Distribute the handouts. Modeling (To have the students guess)
10min	Introduction & Practice	Teach the words of animals : *cow, monkey, pig, lion, rabbit, tiger, duck, sheep T : What's this? ... Repeat after me. ...	Animal Tiger! ...	Show the pictures
15min	Game	Explain how to play the game. Key sentence *Are you a ~? *Yes, I am./No, I'm not. T : Let's read together! T : Do you understand? O.K. Are you ready? Let's start!	Are you a monkey? etc ... O.K ! Key sentence を使って、自分と同じ動物の仲間を5人探す。	Modeling
5min	Greeting	T : That's all for today. Goodbye, everyone. See you next week!	See you!	

Date: Wednesday, October 24, 2001 (1st lesson)

Class: 4-1

Teaching Procedure:

Time	Procedure	Teacher's Activity	Students' Activities	Remarks
5min	Greetings	T : Good morning, everyone. How are you? I'm fine, too. Thank you	Good morning. I'm fine, thank you. And you?	Expose the class into an English atmosphere. First : whole Next : each group
Halloween				
20min	Warm-up & Introduction	Read the students the Halloween story T : Listen to the tape. Read the words of the song T : Repeat after me. Well, let's sing!	(Listening to the tape.) One little, two little,...	Pictures of Halloween character 紙しばいを読んで 聞かせる Singing "Ten Little Pumpkins" Make the students relax
15min	Game	Teach the words : *witch, jack-o'-lantern, monster, black cat, ghost skeleton, bat, scarecrow T : Repeat after me... Explain how to play the game. T : Do you have any questions? T : Are you ready? Let's start!	Witch, monster... No. Let's start right away! Yeah~! I'm ghost! O.K!	Modeling Halloween Basket Play the tape (BGM)
5min	Greeting	T : That's all for today. Good-bye, everyone. See you next week!	See you!	Hand over the candy."trick or treat!"

Time	Procedure	Teacher's Activity	Students' Activities	Remarks
10min	Greetings	Greeting as usual. T : Good morning! How are you?... Show the new words of greetings—*happy, sick, angry, hungry, sleepy	Good morning. I'm fine, thank you. And you?	Put the class in English atmosphere. Pick up the students. (toss the ball)
10min	Introduction	Read the students the Thanksgiving Day's story	Thanksgiving Day	Show the picture
15min	Game	Teach the words—*corn, mashed potatoes, family harvest, friend, turkey, green beans, pumpkin pie, cranberry sauce T : Repeat after me... Explain how to play the game. Key sentence *Do you have a ~? *Yes, I do./No, I don't. T : Are you ready? Let's start!	Bingo Corn, turkey,... Yeah~! O.K!	Show the cards Distribute the cards Play the tape (BGM) Give winners a prize
5min	Greeting	T : That's all for today. See you next week!	See you!	

"Do you have a ~ ? と聞いてクラス内を回る。聞かれた人はそのカードを持っていればYesで答え、質問者はその欄に○をつける。一列○がそろえば"Bingo!"

Date: Wednesday, October 31, 2001 (2nd lesson)

Class: 4-1

Teaching Procedure:

Time	Procedure	Teacher's Activity	Students' Activities	Remarks
5min	Greetings	T : Good morning, everyone. How are you? I'm fine, too. Thank you T : Good morning, OO! How are you?	Good morning. I'm fine, thank you. And you? Good morning. I'm hungry...	Move the desks behind. First : whole Next : individual
Singing "Head, Shoulder, Knees and Clap!"				
15min	Warm-up	T : Listen to the tape. Read the words of the song. T : Repeat after me. Well, let's sing! Sing with touching body parts.	(Listening to the tape.) Sing cheerfully. Show the sheet.	
10min	Introduction	Show the sheet. (body parts) Words : *head, face, eye, shoulder, ear, finger, nose mouth, arm, hand, foot, toe, neck, leg, hip, knee T : What's this?	Body parts	
15min	Game	Explain how to play the game. T : Well, let's start! T : Simon says "Touch your head!"	Simon says	Write the sentence on the blackboard Say faster and faster
5min	Greeting	T : That's all for today. Goodbye, everyone. See you next week!	See you!	

Date: Wednesday, November 21, 2001 (3rd lesson)

Class: 4-1

Teaching Procedure:

Time	Procedure	Teacher's Activity	Students' Activities	Remarks
10min	Greetings	Greeting as usual T : Good morning... T : 今度は、友達同士で挨拶してみよう！〇〇さんと△△さん、前に出てきて。	Good morning!... S1 : Good morning. How are you? S2 : I'm happy!	Expose the class into an English atmosphere.
10min	Warm up	T : Listen to the tape. Read the words of the song. T : Repeat after me. Well, let's sing!	Singing "Silent Night" (Listening to the tape.) Sing cheerfully.	Show the sheet. First : Sing slowly without melody Next : With the tape
10min	Introduction	Show the words— *(twelve months) T : Repeat after me. Quiz T : When is the Halloween?	January! February!... October!	Show the sheet Ask about Christmas, Thanksgiving Day, The New Year, summer vacation
15min	Game	Explain how to play the game Key sentence : *When is your birthday? *It's ~. T : Let's start!	Key sentence を使って質問しながらクラスを回り、与えられた3つの月の誕生日の人を探す。	
5min	Greeting	To greet	To greet	

Date: Wednesday, November 28, 2001 (4th lesson)

Class: 4-1

Teaching Procedure:

Time	Procedure	Teacher's Activity	Students' Activities	Remarks
10min	Greetings	Greeting as usual T: Good morning... T: 今日は、シチュエーションを設定してやってみよう！ 〇〇さんと△△さん、前に出てきて。	Good morning!... S1: Good morning. How are you? S2: I'm angry!	Expose the class into an English atmosphere.
5min	Warm-up	T: Listen to the tape. T: Now, let's sing together.	(Listening to the tape.) Sing cheerfully. Singing "Silent Night"	Show the sheet.
10min	Introduction	Show the words— *ruler, pen, pencil, desk, notebook, blackboard, chair, eraser T: Repeat after me. T: What's this?	Classroom Ruler! Pen!... Desk...Blackboard...	Show the pictures.
20min	Game	Explain how to play the game. T: (Show the card—"head", "hand") せ～の！	提示された単語を各チームそれぞれ一斉に読み上げる。解答者はそれを聴き取り、前にあるイラストカードの中から選ぶ Head! Hand!	Separate the students into two team. これまでに習った単語で、読み方の似ているものを幾つか提示する。
5min	Greeting	Good-Bye	See you	

Date: Wednesday ,December 5, 2001 (5th lesson)

Class: 4-1

Teaching Procedure:

Time	Procedure	Teacher's Activity	Students' Activities	Remarks
10min	Greetings	Greeting as usual T : Good morning. How are you? I'm fine, too. Thank you	Good morning! I'm fine, thank you. And you?	First : whole Next : individual.
Singing "We wish you a Merry Christmas"				
10min	Warm up	T : Listen to the tape. Read the words of the song. T : Repeat after me. Well, let's sing!	(Listening to the tape.) Sing cheerfully.	Show the sheet. First : Sing slowly without melody Next : With the tape
30min	Game	Explain how to play the game Show the key sentences *Who is King? *Are you a King? T : Do you know "janken ressyu?" O.K. Let's start!	King hunt	Move the desks behind.
			Enjoy playing the game. Yes, I do. Let's start right away!	Rock, Paper, Scissors, Go!
10min	Consolidation	Read the book "The Best Christmas Present Ever"	Listen to the story silently.	Recite the story with feeling.
5min	Greeting	T : That's all for today. Goodbye, everyone. See you next week!	See you!	

Date: Wednesday, December 12, 2001 (6th lesson)

Class: 4-1

Teaching Procedure:

Time	Procedure	Teacher's Activity	Students' Activities	Remarks
5min	Greetings & T's self-introduce	T: Good morning... Introduce ourselves.	Good morning!	Put the class in English atmosphere
15min	Introduction	Show the words— *get up, have breakfast, leave for school, have dinner, go to bed T: Repeat after me. Teach how to say time. T: Wow did you say 7:45?	Daily schedule Get up... etc... Seven forty-five.	Show the pictures. Show the clock.
15min	Game	Explain how to play the game (interview game) Show the key sentence— *What time do you~? *I ~ at ... T: 「私は6時半に起きます」は? : "I have breakfast at 7:15"は何? : Good! T: Well, let's start!	I get up at 6:30. 「私は7:15に朝食を食べます。」 Ask their classmates for the daily schedule.	Modeling Distribute the handout.
7min	Consolidation	Introduce the new year of the world—America, Mexico, Japan, China, Peru, Philippines, Taiwan, Thailand, Australia	Enjoy listening to talk.	子ども達に質問を投げかけながら話をする。
3min	Greeting	T: That's all for today. Goodbye, everyone. See you!	See you!	Distribute the questionnaire

Date: Wednesday, December 19, 2001 (7th lesson)

Class: 4-1

Teaching Procedure:

Time	Procedure	Teacher's Activity	Students' Activities	Remarks
5min	Greetings & T's self-introduction	T : Good morning... Introduce ourselves.	Good morning!	Put the class in English atmosphere.
Singing "Mary Had A Little Lamb"				
10min	Warm-up	T : Listen to the tape. Read the words of the song. T : Repeat after me. Well, let's sing!	(Listen to the tape.) Sing cheerfully.	Show the sheet.
15min	Introduction & Warm-up	Show the prepositions. *on, next to, in front of, across from, behind, under, between A and B Warm-up T : Under the chair!... Teach the words of buildings. : *church, fire station...(18 words)	Look at the modeling. Map Move under the chair. Follow the teacher.	ぬいぐるみを使って説明する。 先に学んだ前置詞を使ったゲームを行う。 Show the pictures.
15min	Game	Explain how to play the game. Key sentence— *(ex)The zoo is next to the post office. T : Let's start! The bank is behind the church. : Next, the hospital is ...	Put the card of the bank on the map.	Form 8 groups Distribute a map to each groups.
5min	Greeting	T : That's all for today. Goodbye, class!	Goodbye, Ms.~!	

Date: Wednesday, January 16, 2002 (8th lesson)

Class: 6-3

Teaching Procedure:

Time	Procedure	Teacher's Activity	Students' Activities	Remarks
5min	Greetings	T: Good morning, everyone. How are you? I'm fine, too. Thank you	Good morning. I'm fine, thank you. And you?	Have a chat and make the students relax.
5min	Warm-up	T: Listen to the tape. T: Well, let's sing! Sing with touching body parts.	(Listening to the tape.) Sing cheerfully.	Show the sheet. Let the students stand up.
Singing "Head, Shoulder, Knees and Clap!"				
10min	Review	Review all topics. T: (point to the desk,) What's this? : 「まっすぐ進め」は何? etc...	Desk! Go straight!	
20min	Game	Explain how to play the game. T: Please respond to the Order in English. : Are you ready? Now, let's start! T: Who is the winner? Come on! Give the winner a medal and a prize.	すごろく Let's play right away! Yeah~! / O.K! Enjoy playing the sugoroku. It's me! Wow! Thank you!!	Form 8 groups and distribute the sugoroku. Go around the class and give advice.
5min	Greeting	Make our farewell speech. T: That's all for today. Goodbye, everyone. See you!	See you! Thank you!	Distribute the questionnaire

新聞記事

(琉球新報2002, 1 / 14)

Date: Wednesday, January 23, 2002 (9th lesson)

Class: 5-2

Te
これまでボランティアで英語の授業にかかわってきたが、時間の調整をしなければならず、学校から要請があっても人材確保が難しく、経済的負担もあった。本年度から同事業に位置付けられ、英語科教職必修科目としてできるようになった。同事業は、地元の学校などと連携し、教員を自指す学生が子供たちと触れ合いながら実践的な指導力を身に付ける授業科目を開設するもの。

教職必修科目で 小学生に英語指導

フレンドシップ事業

琉球大学教育学部

琉球大学教育学部の英語教育専修の講義「英語科教育法C」で、学生たちが浦添市立港川小で英語の授業を実施している。文部科学省から国立大学教員養成学部を対象とした「フレンドシップ事業」への助成金を得て行われている。

現在、教育、法文学部の学生八人が同校で英語のPTT(チーム・ティーチング)授業を行っている。学生たちはゲームや歌を取り入れ、体を動かしながら単語や会話を学べるよう工夫。学生たちは「一回の授業の前に、教材作りや打ち合わせな

ど十二時間くらい掛かるので大変」というが「英語に興味を示すようになった子もいる」と児童たちの変化に手ごたえを感じている。

指導している興備峰奈子助教は「これから教育実習に入る学生がほとんどだが、小学生を相手に授業を行う経験が役立つはず」と話していた。二十三日には、午前九時半から同校で公開授業が行われる。



琉大学生が講義の一環として行っている港川小での英語の授業＝浦添市城間の同校

(琉球新報2002, 1/21)

Date: Wednesday,
Class: 4-1
Teaching Procedure

論壇

本紙でも度々取り上げられており、全国各地の小学校で英語教育への取り組みが始まっている。一部の私立小学校では、以前から行われていたことではあるが、公立小学校でも「総合的な学習の時間」の中で、平成十四年度から英語の授業を行う準備が進められている。筆者の調査によると、英語教育の導入に積極的な姿勢を示す小学校も多いが、正課として導入されることになると開げないわけではない。授業を支えるものとして、教員

資源の三つの要素があるが、まず、英語教育の導入で最も危惧されることは、「だれが教えるか」ということで、人材の養成と確保が最重要課題である。



與儀 峰奈子

八一九年度浦添市教育委員指定の国際理解教育推進校であり、現在も古堅宗樹校長の強いリーダーシップの下で、国際理解教育に取り組んでいる。琉大英

十二年度から本格的な英語の授業を始めた。委員会指定の国際理解教育推進校であり、現在も古堅宗樹校長の強いリーダーシップの下で、国際理解教育に取り組んでいる。琉大英

このように状況を踏まえて、琉球大学教育学部英語教育専修へ以下、琉大英語科が本年度から開始した浦添市立海川小学校での取り組みを紹介したい。海川小学校は、平成

このように状況を踏まえて、琉球大学教育学部英語教育専修へ以下、琉大英語科が本年度から開始した浦添市立海川小学校での取り組みを紹介したい。海川小学校は、平成

このように状況を踏まえて、琉球大学教育学部英語教育専修へ以下、琉大英語科が本年度から開始した浦添市立海川小学校での取り組みを紹介したい。海川小学校は、平成

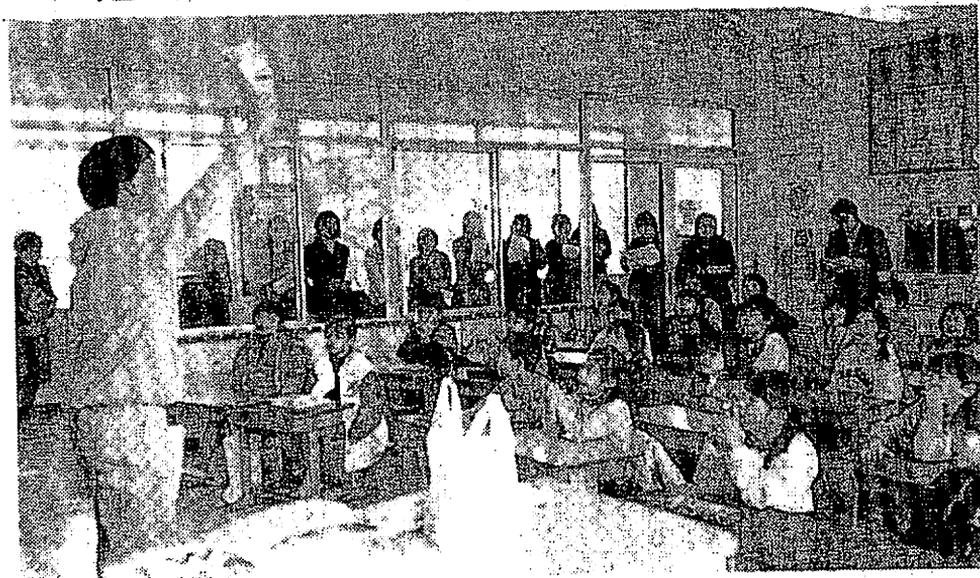
大学生による英語授業

教師としての資質向上を確保

このように状況を踏まえて、琉球大学教育学部英語教育専修へ以下、琉大英語科が本年度から開始した浦添市立海川小学校での取り組みを紹介したい。海川小学校は、平成

(沖縄タイムス2002, 1/25)

学生の質問に、われ先に大きな声で英単語を答える児童＝浦添市立港川小学校



英会話授業、ゲーム形式で楽しく

先生目指す
琉大生奮闘

港川小

琉大の学生による英語の公開授業が二十三日、浦添市立港川小学校（古堅宗明校長、児童八百二十四人）で行われた。文部科学省教員養成学部フレンドシップ卒業後援によるもの。教職員を自指す教育、法文学部の学生八人が昨年十月から一月末まで週に一回、ポラティアで英会話の授業を行っている。

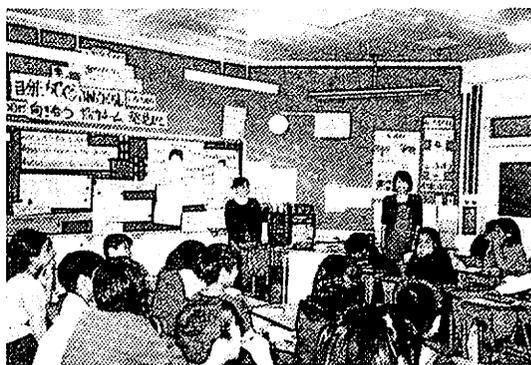
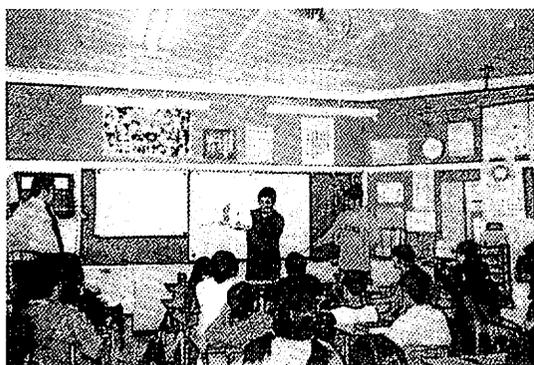
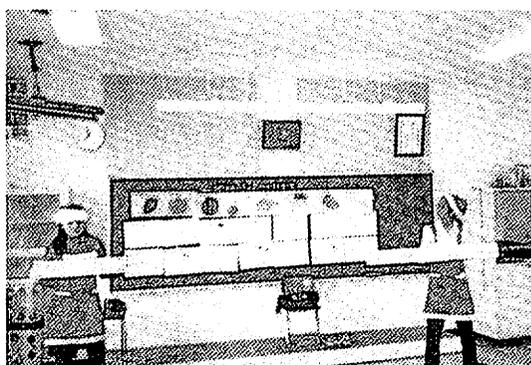
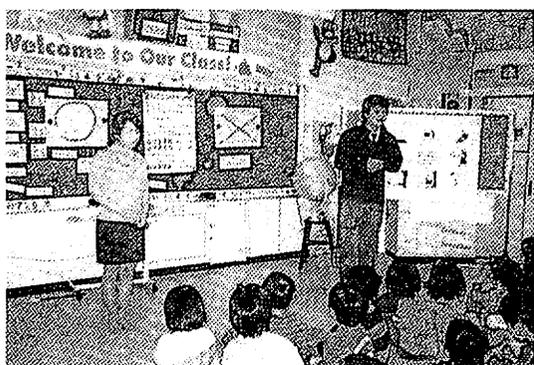
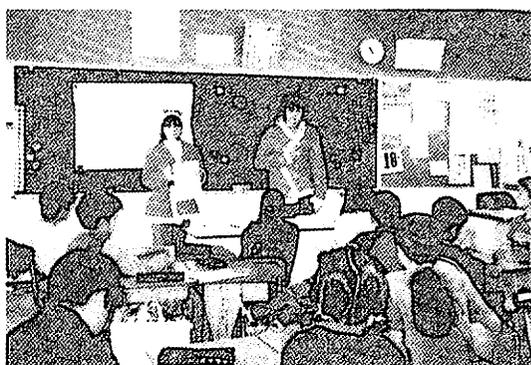
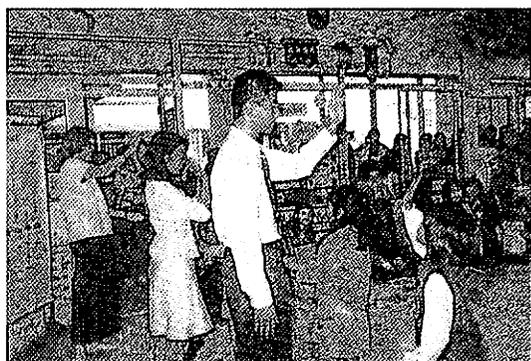
学生たちはペアで二、四年生を担当。多くの教育関係者や父母らが見守る中、長時間かけて準備した手作りの教材を用い、道案内の仕方などをゲーム形式で教えた。

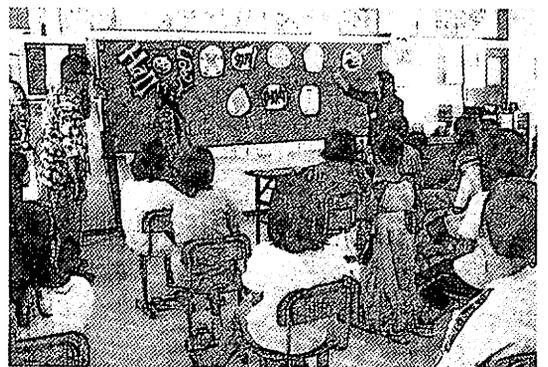
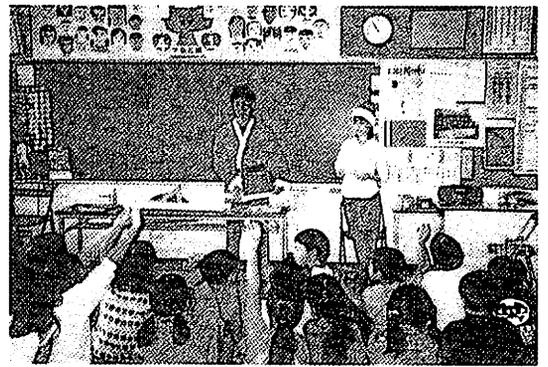
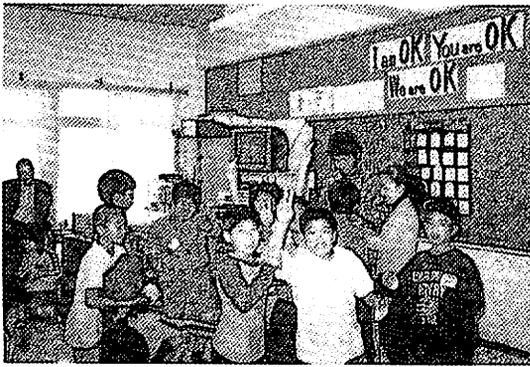
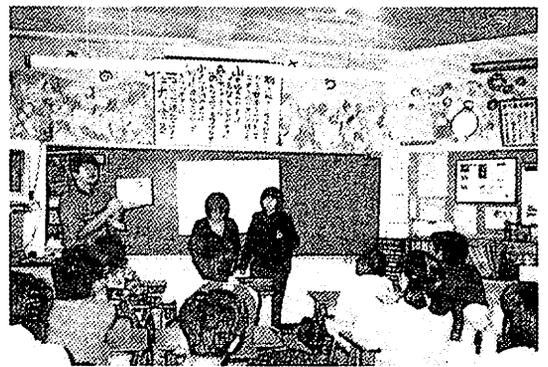
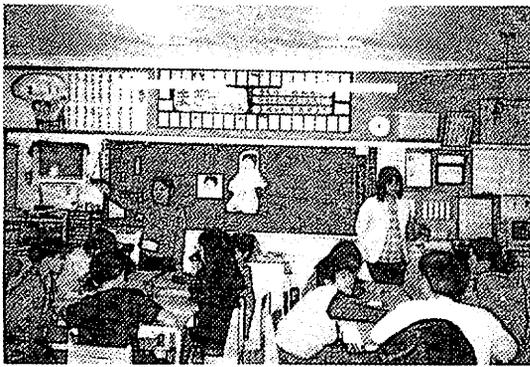
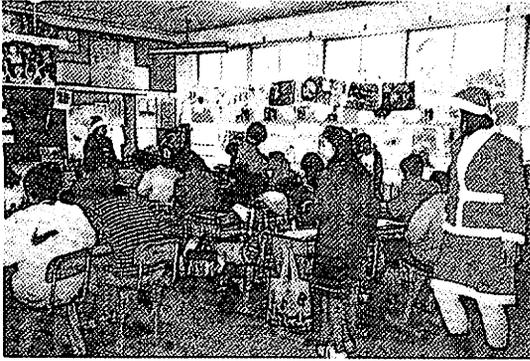
児童たちは、地図の上を指示通りに左右に人形を移動、中には足踏みをしながら回答する事も。質問にも「ボリスステーション」「スーパーマーケット」と楽しそうに元気な声で張り上げた。

授業後の研究会で学生たちは「子どもたちは英語に興味を持ち始めたようだ」「講義で学んだことをすぐに実践でき、大きなやりがいを感じた」など感想を話していた。各担任からも「思いつかない英単語が返ってくる」ことがあり、驚いている」と好評だった。

同小は総合学習の時間に英会話を取り入れている。

小学校英語授業風景





Abstract

Implementation of a New Pre-service Teacher Training Course: Collaborating with the Elementary School System

Minako Yogi

This paper discusses the activities of our effective teacher training program utilizing elementary schools and proposes our plan for establishing a system to build a stronger partnership among the university, elementary schools, and local educational administrations to produce competent language teachers.

Through building this partnership with the school system, university students can test out their teaching plans, teaching materials, and the various theories they learned in their university lectures. In this transition period of implementing English education in elementary schools, one of the schools' important concerns may be to gain competent teachers of the subject. In this sense, I assume that the elementary schools as well can benefit from our program. The English language must be taught by instructors who have a strong command of the language, background knowledge of the language itself, and a broad view of the various theories of language teaching. Therefore, utilizing enthusiastic, competent university students to assist classroom teachers would be a wise choice.

The practicum experience is extremely beneficial for college students who aim to become teachers since they are provided with a precious opportunity to actually interact with students in the elementary schools, examine their original teaching plans and obtain feedback and advice from the homeroom teachers. All these elements lead to improving their teaching techniques, developing effective teaching materials and building communication skills. I am confident that our program is fruitful and all the educational institutions involved can benefit from it, and as a result, it may lead to the production of promising future teachers and eventually influence foreign language education as a whole.